HEPATOLOGY NEWS
肝胆膵病態内科学ニュース

第4・5合併号　2009年1月　発行

新年のご挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。穏やかな新年をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。

旧年中は医局運営に多大なるご援助を頂戴し、誠にありがとうございました。昨年は日本肝臓学会からご依頼をいただきました市民公開講座を大成功に終えましたし、肝臓学会や消化器病学会等の学会活動の活性化を取り戻せた年として位置づけられると考えています。また、私自身としても初めてですが、厚生労働省科学研究費の主任研究者として採用され、当施設が国の肝炎に対する7カ年計画を具現化する一員になれたことを非常に嬉しく思っております。

本年は引き続き肝疾患連携拠点病院の大阪市内唯一の施設として、関連の肝炎専門病院との連携を深め、肝疾患の啓蒙活動、新しい肝炎治療の普及、そして新たな検査法・治療法の開発と病態の解明に努めてまいりたいと思っております。これには、大学病院と大阪市立病院群、さらには医局関連施設間の緊密なネットワークが大切になってくると思われます。常に、情報を共有財産としつつ、その発信源になれるように努力いたしましょう。

また、本年の年末（12月12日～13日）には23年間継続している肝類洞壁細胞研究会を私達の教室でお世話する事になりました。この会は、日本肝臓学会の3代前の理事長でおられた久留米大学名誉教授谷川久一先生（現在も代表世話人です）の先見の明で始まった会です。肝臓は上水道（類洞）と下水道（胆管）の中間地点に肝細胞が島の如く浮いている臓器と捉えますと、まさに上水道で起こっている生体反応を勉強する研究会です。原点に戻って、生体を構成する細胞群の活躍を見聞したいと思います。

本年も、日常臨床は勿論の事、学会・研究会活動を通じて種々お世話になると思いますが、どうかよろしくお願い申し上げます。

（河田則文）

Contents

巻頭言 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
南館より ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
学会・研究会報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
関連病院紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
ソナゾイド造影エコー ・・・・・・・・・・・・・ 4
大阪市大医学研究科
　　客員教授に就任にあたって ・・・・・ 5
医局便り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
大学院生紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
教授秘書紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
研究会主催のお知らせ ・・・・・・・・・・・・・ 9
肝胆膵内科 English Café ・・・・・・・・・・・・ 9
謝　辞 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
肝疾患相談窓口について ・・・・・・・・・・ 11

南館より

はじめまして！　肝疾患予防医学研究部門です。

2008年2月1日より、肝疾患の病態解明、治療、予防医学への展開を目的に新しく発足した肝胆膵研究部門です。現在は肝胆膵内科教授：河田先生のもと、特任准教授：仲島先生、特任助教：志賀先生ほか、ポスドク1名、共同研究員2名、研究補助員1名からなっています。

現在は主に、マウス、ラット、ラビットを主に用い、食事の変化や薬剤誘導による、NASH（非アルコール性脂肪肝炎）や肝硬変のモデル動物を独自に作成し、疾患の発生機序や、増悪・抑制因子の解析に力を注いでいます。また、当グループは同学内器官構築形態学（第2解剖学）をはじめ、大学の内外を問わず、さまざまな分野のエキスパートの方々とコラボレーションをはかり、既成の概念にとらわれずいろいろな視野から研究課題に取り組んでいます。

「研究・・ってなんだか地味～」とか「難しそう！」と思っているあなた！！・・正解です。・・・が、そこには今まで誰も知らなかった科学的真実を世界で一番最初に自分の力で解き明かすという、宝探しにも似た楽しみが含まれています。メディカルサイエンスの場合、それが現在病気で悩まれている方々の治療や、予防に役立つ形で応用されていくので喜びもひとしおです。

研究に興味をお持ちの方、一度ラボへ遊びに来て下さい。

学会・研究会報告

第44回日本肝臓学会総会に参加して

藤井英樹

第44回日本肝臓学会総会は6月5日から6日まで愛媛県県民文化会館で開催されました。当科からは河田教授、塩見教授、羽生教授、田守先生、森川先生、榎本先生、林先生、小川さん、そして藤井が参加しました。また、関連施設からも金先生をはじめ多数の先生方が参加されていました。今回の学会では、AIHやPBCのシンポジウムが大々的に催されたこと、そして森川先生が発表された『肝硬変の成因別実態』等が興味深かったです。私はNASHのセッションに参加しましたが、議論に活気があり、大変勉強になりました。5日の晩にはお約束の宴会がありました。記憶によれば非常に盛り上がった楽しい会であり、写真を供覧したいところですが、今回は男性のみの参加だったせいもあり（？）1枚も残っていない点が悔やまれます。また秋には東京でDDWがありますが、是非皆で乗り込みたいと思います。

関連病院紹介

大阪市立住吉市民病院

当院は大阪市住之江区に位置し、11 診療科をもつ病床数 198 床の総合病院として機能しております。

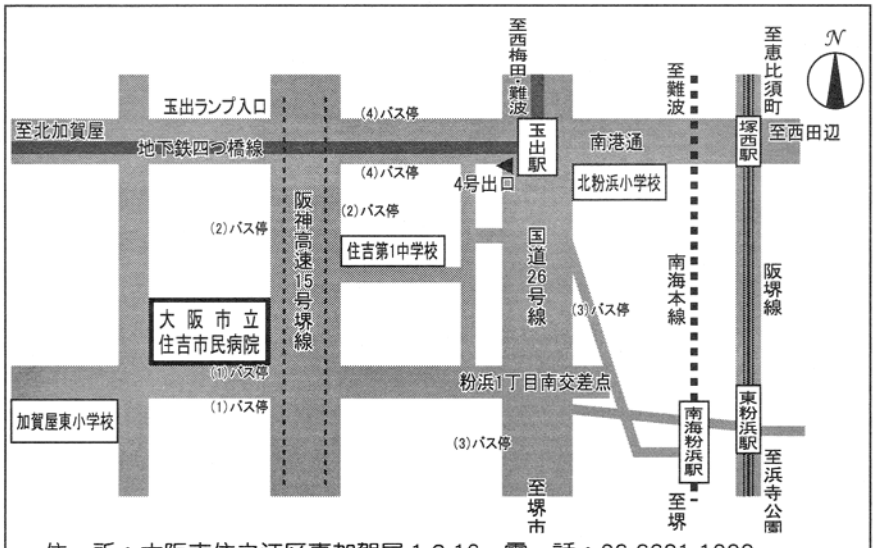
なかでも新生児集中治療室を有し、新生児診療相互援助システムや産婦人科診療相互援助システムによる新生児や母体の緊急搬送を受け入れ、高度な周産期医療を行っており、平成 20 年 3 月に地域周産期母子医療センターの認定を受けました。大阪市南部における周産期医療の基幹病院となっております。

内科は現在 39 床あり、内本定彦内科部長（第二内科　循環器・生活習慣病）をトップに青木哲哉先生（消化管）、南美枝子先生（第一内科　循環器・生活習慣病）、大庭宏子先生（消化管）、小生（肝臓）の 5 人のスタッフと今年の春に院長に就任された齋藤忍先生（肝臓）の計 6 人で外来診療、検査、治療を行っております。

当科では、各種専門検査はもとより、消化管の分野では上下部消化管のポリペクや EMR、EIS、EVL、止血術、ERCP、EST、早期胃癌などに ESD も行っております。肝疾患についてはインターフェロン治療、肝癌に対しては PEIT、RFA、TAE を行なっております。RFA については平野昌也先生（平野内科クリニック）に応援医として助けて頂いております。PTCD や肝切除は当院外科にお願いしております。

昨今の厳しい医療事情の中、近所の住之江病院が今年閉院し、当院を含め近隣の病院に通院患者が大量に押し寄せる事態に住之江区周辺ではなっております。当院もスタッフが一丸となって住之江区を中心とした大阪市南部の人々の健康に貢献出来るようがんばっていきたいと思っております。大学病院をはじめ各関連病院と連携してより良い医療の提供と医学の発展に貢献できたらと思いますので、宜しくお願いします。

（藤本俊輔）



住　所：大阪市住之江区東加賀屋 1-2-16　電　話：06-6681-1000
交　通：地下鉄四ツ橋線玉出駅下車（4 番出口）徒歩 8 分

ソナゾイド造影エコー

大阪市立大学肝胆膵内科　小林佐和子

ソナゾイドは、本邦において2007年1月に保険収載された超音波造影剤です。化学的に安定した難溶性ガスであるペルフルブタンの微小気泡（平均粒子径は2～3μm）で、卵黄から作られたリン脂質のシェルを持っています。そのため、卵アレルギーの方には使用できませんが、呼気排泄のため腎機能低下症例には使用可能です。投与量も少量で、副作用が少なく、非常に使いやすい造影剤となっています。中低音圧で微小気泡を共振させた時に発生するハーモニック信号により造影効果を得るため、連続的にリアルタイムに造影効果を観察できます。また、肝のクッパー細胞に取り込まれるため、静脈投与後10分以降から約4時間程度、SPIO-MRIと同様のクッパーイメージを得ることができ、多方向から何度も観察可能です。

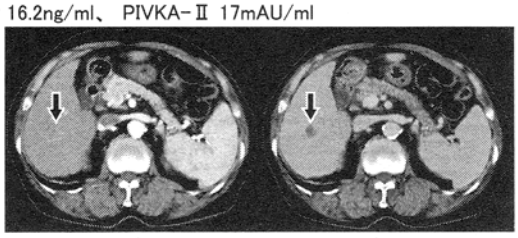
私たちの施設では、昨年5月から今年4月までの約1年間に、のべ114症例に対してソナゾイド造影エコーを施行しています。ほとんどが肝細胞癌あるいは肝細胞癌疑いのSOLに対してですが、その他肝腫瘍、胆嚢腫瘍、副腎腫瘍などに対しても施行しています。ダイナミックCTでは、撮影のタイミングのずれのために適切な像が得られず確定診断に至らないことがあります。しかしながら、ソナゾイド造影エコーでは連続的にリアルタイムに造影効果を観察し、また、時間的余裕をもって多方向からクッパーイメージを観察できるため、より正確な診断・治療に近づける可能性があると思われます。しかしながら、病変の場所によってはその像がとらえられなかったり、診断に至らないケースもあり、今後もさらに検討が必要と考えています。

具体的な方法

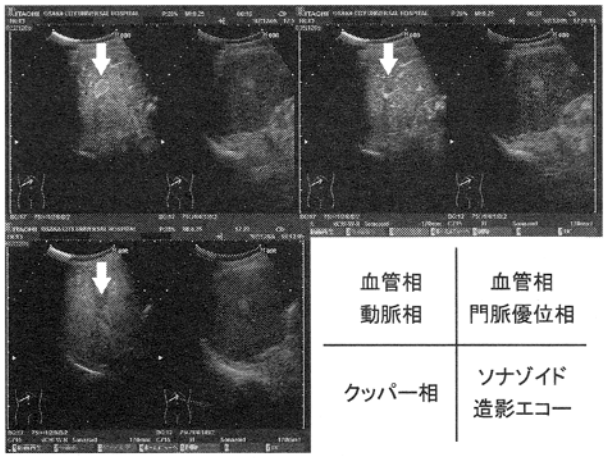
まず、22G翼状針あるいは留置針を用いて、生食でルートキープします。コントラストモードで観察部位を確認し、体重に応じてメーカー推奨量の半量をボーラスで投与し、生食でフラッシュします。約10秒で肝動脈にソナゾイドが流入してくるのが観察できます。10秒から1分くらいまでを血管相（15～30秒を動脈優位相、30～60秒を門脈優位相）として観察。その後、10分ほど経過するまで観察せずに待ち、10分後以降にクッパー細胞に取り込まれた像をクッパー相として観察します。必要に応じて、残りのソナゾイドを再投与し、観察します。

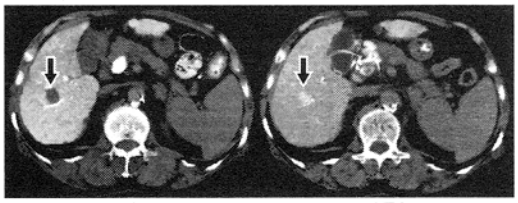
症例1

C型慢性肝炎でフォロー中、CTにてS5にSOLを指摘。
AFP 16.2ng/ml、 PIVKA-Ⅱ 17mAU/ml



early　　late





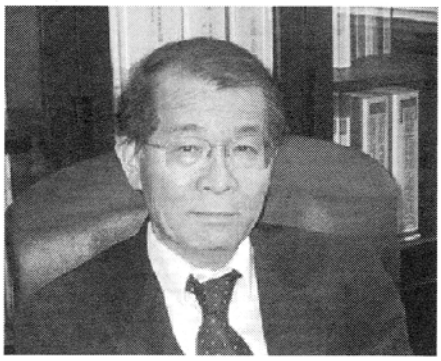
CTAP　　CTA

腹部血管造影検査にてHCCと診断。
同部に対してRFA施行。
肝生検の病理組織診断：高分化型肝細胞癌

大阪市大医学研究科客員教授に就任にあたって

株式会社フェニックスバイオ学術顧問／広島大学名誉教授　吉里勝利

私は元々生物の発生現象に惹かれて、動物の発生過程における細胞の増殖と分化の仕組みに関して研究をしてきました。若い頃は、蛋白質研究が花盛りで学生の時の教育も蛋白質の性質に関するものが主流でした。私の研究者としての成長とともに、研究分野では遺伝子の性質に関するものが主流になってきました。あるテーマに関する研究が深まれば深まる程、遺伝子制御の細かい話になって行くのに飽き足らない思いを強くしていました。そのころ、国の大きな研究プロジェクトを担当することになりました。質量分析によって微量のペプチドのアミノ酸シークエンスが決定出来るようになったことが、未だ「プロテオーム」という術語もありませんでしたが、専門家の間では噂になるようになった頃でした。早速その質量分析機を購入することにしました。私が関心を持つ生命現象が成立するのに関与している蛋白質ネットワークを知りたいと思ったのです。日本には未だそのような機器はほとんどない時代でしたから、メーカーの所在地であるマンチェスターに蛋白サンプルを持参してその機器の実力を調べに行って、噂通りの素晴らしい機器であることが分かった時の驚きを今でも思い出します。こうして私の研究チームにプロテオームグループが発足しました。一方、肝臓の再生も主要なテーマでしたので肝再生現象をプロテームの手法で調べようと言うことになりました。大阪市大の河田先生が肝臓星細胞で良い研究を発表なさっていることを知り、星細胞の活性化に関与する蛋白を網羅的にリスト化する研究を共同でやりましょうということになったのです。この成果の一つがサイトグロビンの発見につながりました。



広島大学を停年で退職した後、私の研究プロジェクトの成果で誕生したフェニックスバイオで、肝臓再生と毛髪再生の研究を引き続きするということになりました。現役時代の河田先生との縁で、活動の場を大阪市大にすることになりました。このことがきっかけになり、皮膚科のグループとも共同研究が始まっています。新しい手法と考え方を取り入れて私のライフワークとなった肝臓と毛髪の再生に関して、皆さんと大きな成果を上げたいと願っています。それからもう一つ夢があります。肝臓や毛髪研究を行う以前から考えていたことですが、機会に恵まれずアイディアだけ暖めてほとんど手つかずの状態にしていたテーマを開始したいという夢です。合成生物学とでも名付けられる分野の研究です。肝臓や毛髪の研究もこの分野にふくまれるのですが、合成生物学の基礎となる研究を開始する準備をしています。合成生物学の詳しい研究内容に関してはありましたらいつか機会を見つけてお話ししたいと思います。

河田先生から就任挨拶の文章を依頼されたのは夏頃だったと思います。すっかり遅くなってしまって、今年も終わろうとしています。お詫び致します。大阪市大が肝臓研究の世界的メッカの１つとして大きく成長、発展することを期待しています。

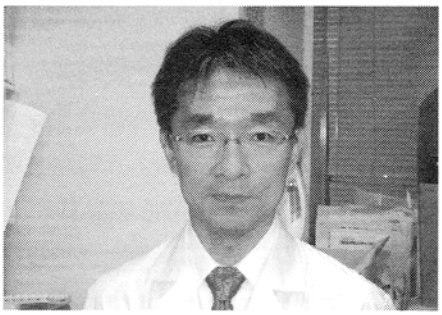
医局便り

医局長　田守昭博

医局長を拝命して早２年が経過しました。いつしか臨床医ではなく、コーデイネーターの様な毎日になりました。そこで今年の一連の医局員の移動をご紹介します。まず初期研修を修了された松田香奈子先生を肝胆膵内科へ迎えることができました。また元山宏行先生と山口康徳先生が大学院博士課程へ森　真美さんが修士課程へ進学されています。無事大学院を修了された林　健博先生は医学博士としてさらなる研究の発展が期待されます。

一方、長年入院係として病棟運営に携わっていただいた安田隆弘先生が大学を離れ、2009年春には名古屋へ転任することになりました。彼の入院係継続年数は旧第三内科以来最長記録と思います。電子カルテへの導入時期から昨今の在院日数や病床利用率が評価対象となる時期において大役を努められ本当にお疲れさまでした。改めて敬意を表したいと思います。また医局秘書の高志さん、教授秘書の高村さん研究補助員の水野さん、新﨑さんが退職されたのも今年です。後任として医局秘書には瀬田川さん、教授秘書には髙野さん、研究補助員として安田さん、吉田さん、川本さんが加わっています。中国から留学されていた慕先生も10月に帰国されました。振り返りますと随分多くの人の移動があった一年でした。

さて肝胆膵内科では今年、種々のイベントが開催されました。あべの肝臓倶楽部には大阪大学の林紀夫教授、イタリア・フィレンツエ大学のピンツアーニ教授、兵庫医科大学の飯島直子教授を迎え各先生から専門とされる分野について最新の興味深い講演をして頂きました。また医局セミナーには名古屋市立大学の田中靖人准教授を迎え『和源』での会食も含め楽しく、勉強させていただきました。2009年も多くの企画があり、ホームページ等でご案内したいと思います。ご興味のある方は是非、ご参加ください。



診療につきましては、2008年４月から始まった肝炎助成制度を利用した抗ウイルス治療導入希望の患者さんの紹介／受診が増加しました。この制度は保険診療に基づいてＢ型あるいはＣ型慢性肝炎に対するインターフェロン投与を行う際に、患者さんの年収に応じて国と自治体が医療費の補助を行うものです。我々は教室主催の市民公開講座を３月と６月に開催し本制度について患者さんや一般の方へ啓発致しました。その結果10月末までの７ヶ月間に100名の患者さんにインターフェロン治療を導入することができました。大阪市大病院は、厚生労働省から肝炎拠点病院に選定され来年度以降も肝疾患診療の指導的施設として活動することを要求されています。年末の休院期間（今年は12月27日～１月４日の９日間）には、これら治療継続中の患者へのインターフェロン注射を途切れることなく実施するため万全の体勢を整えております。

それにしても医学部卒業生の大学離れは、相変わらずであり初期研修先として東京やその近郊にある病院に人気があると報道されています。市大では大学院への進学も臨床系は何とか希望者を確保しているものの基礎系では定員割れの教室が多い様に聞きます。こんな偏在はいつまで続くのか？男（医局長）は、つらいよとあの歌を口ずさみたい心境です。♫奮闘努力の甲斐もなく、今日も涙の陽が落ちる。♫

最後に個人的に医局長として役得だったのが、披露宴で新婦と花道を歩けたことです。森川先生ありがとうね。

大学院生紹介

中屋　美香　（大学院２年）

平成16年入局で現在肝胆膵内科大学院２年に在籍中の中屋です。１年目研修は大学病院でさせていただき、その後３年間は関連病院で勤務し、現在大学病院で病棟患者さんも数人受け持ちさせていただきながら榎本先生の下で研究のご指導を頂きつつ日々勉強をさせて頂いています。

肝胆膵内科でお世話になろうと決めた理由は、１年目のときに超音波検査で初めてHCCのrecurrenceを自分で見つけれたことを誉めていただいたことが嬉しかったという非常に単純な理由がきっかけでもっとエコーで腕をあげたいと思うようになり、また肝疾患の奥の深さと難しさを特に関連病院での臨床経験の中でも感じることが多かったということです。大学病院で診る肝疾患は今まで関連病院で診た症例とまた違って専門性も高く、まだまだ分からないことだらけですが、多くの先生方の温かいご指導を頂きながら、臨床・研究の両面で精進したいと考えております。

まだまだどちらの面においても経験不足で未熟なところばかりでご迷惑ばかりおかけしておりますが、これからもご指導・御教鞭のほどをよろしく御願い致します。

元山　宏行　（大学院１年）

今年、肝胆膵病態内科学大学院に進みました元山宏行と申します。

新臨床研修医制度が施行されてから早５年が経過しようとしています。

母校である兵庫医科大学を卒業し、大阪市立大学附属病院での研修医生活を始め、その中で第三内科をローテーションさせていただき非常に多くのことを学ばさせていただきました。2年目では済生会野江病院にて循環器内科・消化器内科をローテートし、内科医として幅広く経験させていただきました。

3年目になり第三内科に入局させていただき、消化器内科・肝胆膵内科をより専門的に研修しました。実際に疾患を診療、加療していく上で肝胆膵領域に興味を持ちました。なぜこのような病態になるのか？治療にどんな可能性があるのかを、より専門的に、基礎的に一度どっぷりと勉強してみるため平成20年度より大学院へ入学しました。現在やっている主な研究は鉄結合蛋白であるCytoglobinを発現させているマウスを用いて、細胞、臓器がどのように酸化ストレスに対して反応が生じるか、また他にどんな働きがあるのかを今後解析していくところであります。これまでやっていた医業とはまったく別の主義と考え方がありますが、様々な分野の先生方、研究員の方々にご指導いただきながら今後も頑張っていく所存です。まだまだ駆け出したばかりですが今後ともよろしくお願いいたします。

山口　康徳　（大学院１年）

本年度、肝胆膵内科学講座の大学院に入学いたしました山口康徳です。自己紹介文をとのことですので簡単ですが自己紹介文を書かせていただきます。現在までの略歴ですが研修１年目は大阪市大病院、２年目は長吉総合病院にてスーパーローテート方式で研修をさせていただきました。研修医時代、１年目は肝胆膵内科では岩井先生に指導していただきました。当初は何もわからないままただ岩井先生のあとをついてまわっていただけであったと記憶しております。しかし、何となくですがその頃から肝臓疾患に対し興味を持つようになりました。その後、外科、麻酔科などをローテートし１年目の大阪市大病院での研修は終了しました。２年目は長吉総合病院で内科８ヶ月、産婦人科１ヶ月、小児科１ヶ月、東成区の長田医院にて地域医療１ヶ月、大阪市大病院にて精神科１ヶ月の研修を行ないました。長吉総合病院での内科研修では肝胆膵内科講座出身の森山先生に８ヶ月間指導していただきました。大学病院とは違うcommon diseaseを中心に患者さんを担当させていただき１年目とは違う新鮮な気持ちで研修を受けることができ非常に有意義な研修を受けることができました。研修２年間で消化器に興味を持ち始めていたため特に他科と悩むことなく昨年、第３内科へ入局させていただくことになりました。入局後の３年目は大学病院ではなく東住吉森本病院の内科・消化器内科にて金副院長、藪さこ部長、森本部長の御指導の下、消化器疾患、救急疾患を中心に学ばせていただきました。それまではあまり救急医療に関わることが少なかったため森本病院での最初の時期は毎日ドキドキしながらの勤務でしたが良い意味での緊張感を持ちつつ研修をさせていただきました。また、内視鏡と腹部エコーなどの検査を本格的に研修させていただき自分にとっては非常に有意義な１年間でありました。３年目は専門分野を決める時期でありましたが肝胆膵領域に興味をもっていたため迷うことなく肝胆膵内科学講座に入局させていただき現在に至っております。

現在は大阪社会医療センター付属病院に勤務させていただいております。病院の環境がやや特殊でありたまに戸惑うことはありますが榎本先生の御指導の下、楽しく仕事をさせていただいております。榎本先生からは臨床のことだけではなく研究についてのお話を聞くことができ非常に勉強になっております。しかし、お話を聞けば聞くほど自分の無知さを感じ反省する日々であり勉強しないといけないなあと感じております。

今後の抱負としてはこれからの大学院での４年間で自分は肝臓を専門にしていると人に胸を張って言えるように臨床、研究に励んでいきたいと考えております。今後、河田教授はじめ肝胆膵内科学講座の先生方、関連病院、OBの先生方に御指導していただく機会が多いかと思います。御迷惑をおかけすることが多いかと思いますが御指導、御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。稚拙な文章ではありますが自己紹介文とさせていただきます。

教授秘書紹介

髙野　由利子

８月より肝胆膵内科学　河田教授秘書としてお世話になっております。小学生の頃から英会話スクールに通い始め、それ以来英語にはまっています。大学卒業後、就職したものの、「海外に行きたい」という気持ちが強くなり、退職し、短い期間でしたがカナダに行きました。これで満足するかな、と思っていましたが、ますます

好きになって帰ってきました。

帰国後、人と話せる仕事、人のお手伝いができる仕事、そして英語を使う機会がある仕事を求めて転職活動をしていたときに大阪市立大学の肝胆膵内科学に出会いました。

8月からの5ヶ月間で一番印象に残っていることは、勤務開始から数日後、イタリアからPinzani教授が来られたときに、京都観光をご一緒させていただいたことです。京都に詳しくない私は、不安と緊張、そして夏の暑さで汗ばかりかいていましたが、Pinzani教授はとっても優しくユーモアたっぷりで、私を楽しませてくださりました。まだまったく日々の仕事もわからない中で、素敵な機会をくださった河田教授に感謝しております。

将来は自分で英語を教えてみたいと漠然と考えています。今はまったく違う場所で働かせていただいているようにも思いますが、海外から教授をお迎えすることや、英語でe-mailや書類の作成等、英語を使う機会もいただいております。新しいことすべてが勉強になり、貴重な経験で嬉しく思います。

まだまだ分からないことばかりで、ご迷惑お掛けいたしますが、教授はじめ皆様に気持ちよく働いていただけるよう努めてまいります。ご指導よろしくお願いいたします。

研究会主催のお知らせ

以下の研究会を肝胆膵病態内科が主催で開催することになりました。何卒、ご協力をよろしくお願いいたします。

The Meeting of the Liver and Immunology

日　時：2009年9月5日（土）
場　所：京都

山本祐夫先生が始められた「肝と免疫」研究会が全国版へと規模拡大された会です。毎年、9月の第1土曜日に開催されています。今年の会合のお世話をすることになりました。詳細は追ってご報告いたします。

第23回肝類洞壁細胞研究会

日　時：2009年12月12日（土）12:00～
　　12月13日（日）12:00
会　場：ホテル京阪ユニバーサルタワー
住　所：〒554-0024　大阪市此花区島屋6-2-45
交　通：JRユニバーサルシティー駅直結

元肝臓学会理事長の谷川久一先生が始められた全国版の研究会であり23年間継続して行われています。河田教授が本年の会合の当番世話人に推挙されました。

医局を上げて成功させたいと思っております。現在、ホームページ作製中です。

肝胆膵内科 English Café

2009年2月より、医局の先生方に英会話力をブラッシュアップしていただくために、週1回　90分　ネイティブアメリカ人の先生による英会話レッスンを行う「肝胆膵内科English Café」を始めることにいたしました。気軽に参加でき、そして英会話を楽しみながら身につけよう、ということから河田教授が命名しました。楽しく活発な英会話レッスンにしていきたいと思っております。今のところ、毎週水曜日　18：30スタート、南館4階肝疾患予防医学研究部門研究室内で行う予定です。誰でも参加できます。お気軽に英会話を楽しみましょう。

謝　辞

当教室へ教育研究奨励寄付金を頂戴いたしました。ここに、その崇高なるお志に敬意を評し御礼申し上げると同時に、医局員一同、医学・医療の向上に鋭意努力することをお誓い申し上げます。

鎌田　昌信　氏（大阪府堺市）

「大阪市立大学病院、特に、肝胆膵内科にはいつもお世話になっています。教育の充実ならびに肝臓病に関する研究の発展を願っております。」

Y・T　氏（和歌山県和歌山市）

Y・T氏よりお手紙を頂戴いたしました。

昨年11月～12月に肝ガン治療のため10階に通算10回目の入院となり、先生方はじめ皆様のお陰で無事退院させていただきました。小生の肝ガンの第一回目の治療（平成11年12月13日）から丁度10年の節目を同じ10階で迎え感無量でした。5年生存率がどれだけとか言われていますが、それをはるか超える10年目を迎えかつ治療を続けていただいていることに心より感謝している次第です。

小生の初診は平成4年で黒木先生でした。その後IFNは日本橋の病院でお世話になるも効果なく、平成9年にカンバックして田守先生のお世話になり以来今日に到っています。10階へは10回入院（延べ284日、うち検査入院1回）で治療回数は、PMCT1回、LMCT2回、RFA1回、PEIT2回、TAE5回、TAI1回の12回に及んでいます。なかでも印象的なのは3回あります。

まずは第一回目のPMCTです。肝生検と全然違うよ脂汗出てくるよとの話でビクビクもので治療台に横たわりました。やっていただいたのは田守先生でした。準備が始まり見学の先生方もお見えになり、いよいよ開始となると覗かれてる先生方の顔、顔に圧倒され緊張が高まるばかり、一発で命中、出血なし終了しましたと告げられた時は力が抜けました。

次は2回目のLMCT、横隔膜の下側にあるとのことで場合により水を入れるとのこと。やっていただいたのは藤井先生でした。手術台で準備も終わる頃、いつも顔なじみの先生方が大勢見守っていてくれて感謝感激。先生のご苦労で水を入れなくとも腹腔鏡で見えたよと言っていただいた時はひと安心、しかしその前後の痛みは通常でなく血圧計はチンチン鳴りどおし、痛い痛いの連発で先生に大変ご迷惑をおかけしました。今までの治療で最も苦しく感じました。今日では全身麻酔で行う場合もあるとか。

次は今回のRFAです。やっていただいたのは小林先生でした。処置室の中は女性の先生ばかり看護師さんも含め男子は治療台に横になっている小生のみ。男子たるもの弱音は禁物と頑張ってみたものの、治療が始まるや弱音ばかりで迷惑のかけっぱなし。二箇所ありあと一箇所は針刺しの難しい所と聞く、無事通していただいた時はありがたいの気持いっぱいでした。女性陣のご活躍、チームワークに敬服いたしました。

小生が貴院にお世話になってすでに17年、癌発病から10年、この間同病の先輩、後輩が次々と亡くなり、だんだんと同病者も残り少なくなってきている中で、適切な検査、治療により今日までまずは元気に過ごさせてもらっているのはありがたい話です。これも先生方のお力のお陰、放射線科はじめ看護部等々貴院の総合力の賜物と日夜感謝しながら毎日を過ごしています。

今年2月には古希を迎えます。次世代を守る産婦人科、小児科に支障が出ていると言われている中で、小生ごとき老人がお世話になりっぱなしで良いのかと自問自答していますが、引き続き今後ともよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

大阪府では、肝疾患診療連携拠点病院を指定しております。

肝疾患診療連携拠点病院は、①肝疾患診療に係る一般的な医療情報の提供及び②府内の肝疾患に関する専門医療機関に関する情報の収集や紹介、並びに③医療従事者や地域住民を対象とした研修会や講演会の開催や肝疾患に関する相談支援に関する業務などを行います。

本府の肝疾患診療連携拠点病院の詳細は、以下をご覧下さい。

大阪府健康福祉部保健医療室ホームページより（http://www.pref.osaka.jp/chiiki/kenkou/gan/）

肝疾患相談窓口について

肝疾患に関して一般的な相談や地域の専門医療機関の案内等を行なう肝疾患相談支援センターを府内の各拠点病院(裏面参照)に設置しています。

○大阪医科大学附属病院　病院医療相談部
〒569-8686　高槻市大学町2-7　電話：072-684-6754　FAX：072-684-6339
相談受付日時：月曜～金曜９時～16時　第1･3･5土曜９時～12時
メ ー ル ：hof088@poh.osaka-med.ac.jp　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://hospital.osaka-med.ac.jp/

病院医療相談部では担当者がお話をお伺いし、適切に対応いたします。（例：受診についての相談・案内、専門医療機関の紹介、セカンドオピニオン等々）

○大阪大学医学部附属病院　相談支援センター
〒565-0871　吹田市山田丘2-15　電話：06-6879-3621　FAX：06-6879-3629
相談受付日時：月曜～金曜９時～17時
メ ー ル：office@gh.med.osaka-u.ac.jp　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/gh/

相談支援センターでは、①医療助成制度の説明、②専門医療機関の紹介、③検診案内といった業務を行っています。対応については、専門医及び医療スタッフが行っております。

○関西医科大学附属滝井病院　患者相談センター
〒570-8507　守口市文園町10番15号　電話：06-6992-1001（代表）　FAX：06-6992-4846
相談受付日時：月～金曜９時～16時　第1･3･5土曜９時～11時30分
メ ー ル：kouhou@takii.kmu.ac.jp　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www2.kmu.ac.jp/hospital/

看護師または事務職員により、受診についての相談・案内をいたします。来訪者及び担当医師から連絡のあった患者さまを対象に、医療ソーシャルワーカーにより、「肝炎医療費助成制度」を中心に介護保険や障がい年金など諸制度の活用についての相談をお受けします。また、「肝臓病教室」、「市民公開講座」への受講を案内いたします。

○大阪市立大学医学部附属病院　医事運営課医療相談担当
〒545-8586　大阪市阿倍野区旭町1-5-7　電話：06-6645-2893　FAX：06-6636-3539
相談受付日時：月～金曜９時～17時15分
メ ー ル：i-soudan@med.osaka-cu.ac.jp/hosp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/hosp　携帯用：http://www.med.osaka-cu.ac.jp/hosp/i/d31.html

医療相談担当には、医療ソーシャルワーカー４名、精神保健福祉士２名、看護師２名、事務員11名の体制で受診や社会福祉制度などの各種相談に対応しています。
お住まいやお勤め先などの肝疾患専門医療機関等の情報をご提供させていただきます。(ただし、大阪府内のみ)
肝疾患に関する治療内容に関しましては、適時専門診療科の医師と調整のうえ、ご返事させていただくことになります。

○近畿大学医学部附属病院　肝疾患相談支援センター
〒589-8511　大阪狭山市大野東377-2　電話:072-366-0221(内線2162)　FAX:072-365-7161
相談受付日時：月～金曜１０時～１７時
メ ー ル：chiiki@med.kindai.ac.jp　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.med.kindai.ac.jp/shoukaki/

毎週火曜13時～16時には、肝臓学会認定肝臓専門医を中心とする消化器内科スタッフが、インターフェロン治療の実際、肝疾患の自然経過、肝癌治療（特にラジオ波治療・塞栓療法・動注療法）の詳しい説明ならびに食事指導などを行います。
また、患者さんのケア、注意事項、日常生活などに関しては肝臓外来の専門看護師、栄養指導については管理栄養士が対応いたします。

この窓口では、個別の病態や治療に関することについては相談をお受けかねますのでご了承ください。

大阪府内の肝疾患診療連携拠点病院について

○肝疾患診療連携拠点病院とは？

①肝疾患診療に係る一般的な医療情報の提供、
②大阪府内の肝疾患に関する専門医療機関等に関する情報の収集等、
③医療従事者や広く府民を対象とした研修会や講演会の開催や肝疾患に関する相談支援

などを行います。

また、各肝炎専門医療機関等の支援を行い、府内の肝疾患の診療ネットワークの中心的な役割を果たしています。

○大阪府の肝疾患診療連携拠点病院はどこ？

大阪府では、
・大阪医科大学附属病院
・大阪大学医学部附属病院
・関西医科大学附属滝井病院
・大阪市立大学医学部附属病院
・近畿大学医学部附属病院
の５病院を、大阪府肝疾患診療連携拠点病院に指定しています。

各拠点病院では肝疾患に関して一般的な相談や地域の専門医療機関の案内等を行なう肝疾患相談支援センターを設置しています。各センターの詳細については表をご覧下さい。

各病院の受診の有無にかかわらず相談を受付けています。

なお、個別の病態や治療に関することについては相談をお受けかねますのでご了承ください。

【このチラシについて】
大阪府健康福祉部保健医療室健康づくり課がん対策グループ
電　話：０６－６９４４－９１６３　ﾌｧｸｼﾐﾘ：０６－６９４１－６６０６

編集後記

News第４・５合併号をお届けします。また、肝胆膵内科ホームページを随時更新いたしております。是非ご覧下さい。

これからも引き続きＮｅｗｓをお届けさせていただきます（今回の原稿は「新年のご挨拶」以外、全て昨年12月までに執筆頂いておりますので、その旨ご理解・ご了承頂けますようお願い致します）。

（教授秘書：髙野由利子）

HEPATOLOGY NEWS
肝胆膵病態内科学ニュース
第４・５合併号　2009年１月　発行

発 行 者／大阪市立大学大学院医学研究科
肝胆膵病態内科学
〒545-8585　大阪市阿倍野区旭町 1-4-3
TEL：06-6645-3811　FAX：06-6645-3813
編集委員／森川浩安